

【福祉・今治市】

は、古来より「こうろく」や「講」という仕組みによって行われてきました。が、このシステムの「冠婚葬祭」を中心としたメニューだけでは、高齢化している地域住民の生活支援に限界を感じ、色々と模索する中で平成7年に「グループだんだん」を発足、「ゆるやかに、少しずつ」実践しており



ふれあいサロンきないやクリスマスパーティー

にたまたない人は誰もいない、みとめ合い、たすけあう」ことであり、ノーマライゼーションの地域づくりの重要さを島の人々に伝えて頂きました。現在はチップの交換はしていませんが、この精神がふれあいサロン「きないや」などの事業に繋がっています。

また、超高齢化してい

島の福祉について 島を大学村に

私たちが住む今治市関前地域は、産業の衰退等による著しい人口流出により現在人口650人、高齢化率55%を超えるとともに、超高齢者社会の真っ只中にあります。私は、このような関前の島で生まれ小・中を過ごし、福祉大を卒業して20年間、市町村合併まで関前村役場職員として福祉実践を行ってきました。

ます。「だんだん」の活動は、「タイムダラー」というアメリカで実施されている時間預託ボランティアを基本として、地域に合わせてアレンジした形の相互ボランティア集団として、わが国で初めて実践されたものです。ただ、とても大切な事なのですが、この方法が重要でなくその理念が大切なのです。創設者のエドガー・カーン氏によれば「この世に役

る関前地域では、島外からの支援が必要であると考え、5年程前から大学生による地域福祉実習を実践しています。これは、島の民家を借りて約一か月地域総合型実習を行うものです。都会から来る学生は島の暮らしについて学び、いずれ福祉の現場に立つ専門家になるために必要なミッションを築いていくには大変重要な体験となります。また、地域住民からは、お祭りや諸行事への参加や支援をしてもらう事によって地域活性に繋がりに、近い将来、この島を若い人が学び集う「大学村」にしたいという夢をもっています。

島崎 義弘
今治市関前グループだんだん

